

## 全国環境研協議会加盟機関が実施している生物学的調査研究（令和元年度）

全国環境研協議会環境生物部会では、生物学的調査研究に関する情報交換を進め、共同研究への発展等に資することを目的として、加盟機関に生物学的調査研究の実施状況についてアンケート調査を実施しています。下表は、令和元年度に実施している調査研究課題名及び概要をまとめたものです。

実施機関名	地方独立行政法人北海道立総合研究機構 環境・地質研究本部 環境科学研究センター
調査研究課題名 及び概要	共同研究Ⅱ型 森林生態系における生物・環境モニタリング手法の活用  国立環境研究所及び地方環境研究所との共同研究Ⅱ型に参加し、パッシブサンプラーによるオゾン等大気汚染物質の濃度情報の集積と技術的な検証を行う。
実施機関名	岩手県環境保健研究センター
調査研究課題名 及び概要	重要な絶滅危惧植物を存続させるための技術開発に関する研究  「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（種の保存法）」や「岩手県希少野生動植物の保護に関する条例」の指定種から、繁殖技術が確立されていない種の保護や苗生産法の開発に取り組む。 [URL] <a href="https://www.pref.iwate.jp/kanhoken/kankyuu/1015879.html">https://www.pref.iwate.jp/kanhoken/kankyuu/1015879.html</a>
調査研究課題名 及び概要	イヌワシの生息数維持に向けた保全生態学的研究  イヌワシの分布、繁殖状況、生息環境、個体群構造等に関わるデータを収集・解析し、生息数維持に向けた科学的知見を整備する。 [URL] <a href="http://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/shizen/inuwashi/top.htm">http://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/shizen/inuwashi/top.htm</a>
調査研究課題名 及び概要	ツキノワグマの個体群動態と将来予測手法の開発ならびに人里への出没メカニズムの解明  モデル地域でヘア・トラップ調査を実施して個体群動態と将来予測を行い、捕獲上限数の算定方法を開発する。またGPSテレメトリーによる行動圏の把握をもとに人里への出没メカニズムを解明する。 [URL] <a href="http://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/shizen/mammal/work/mammal-work.html">http://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/shizen/mammal/work/mammal-work.html</a>
調査研究課題名 及び概要	五葉山地域に生息するニホンジカの個体数推定  ニホンジカの生息数推定法を開発するため、各事業のデータを用いて自然増加率を推定する岩手県独自のシミュレーションモデルを構築する。 [URL] <a href="http://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/shizen/mammal/work/mammal-work.html">http://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/shizen/mammal/work/mammal-work.html</a>
調査研究課題名 および概要	ウイルス媒介性節足動物（ヒトスジシマカ）の生息に関する研究  ウイルス性疾患を媒介する感染症対策上重要な節足動物であり、地球温暖化の身近な指標生物であるヒトスジシマカについて、生息北限地域における生息状況の調査及び生息条件の解析を行うとともに、自治体が行うヒトスジシマカの調査に協力する。 [URL] <a href="https://www.pref.iwate.jp/kanhoken/kankyuu/1015878.html">https://www.pref.iwate.jp/kanhoken/kankyuu/1015878.html</a>

実施機関名	宮城県保健環境センター
調査研究課題名 及び概要	共同研究Ⅱ型「生物応答を用いた各種水環境調査方法の比較検討」 国立環境研究所及び地方環境研究所との共同研究Ⅱ型に参加し、生物試験方法（WET手法等）に関する情報収集・検討を行う。 本県は、供試魚としてアカヒレを使った生物試験（AOD試験）を行い、他の機関で実施した生物試験等の結果との比較評価を行う。
実施機関名	山形県環境科学研究センター
調査研究課題名 及び概要	自然生態系保全モニタリング調査 森林を取り巻く自然環境の異変等を早期に察知するため、山岳地域や里山において、動植物の生息・生育状況等自然環境の調査を行っている。
調査研究課題名 及び概要	ブナ・ナラ豊凶調査 森林の更新や野生動物の生息動向に大きな影響を与えるブナ・ナラの豊凶調査を行っている。 [URL] <a href="http://www.pref.yamagata.jp/ou/kankyoenergy/053001/">http://www.pref.yamagata.jp/ou/kankyoenergy/053001/</a>
調査研究課題名 及び概要	ツキノワグマ生息状況調査 現在、ツキノワグマによる農作物被害や人身事故の防止に向け、抜本的な対策が求められている。被害対策を行ううえで生息数の把握が極めて重要であることからカメラトラップを用いた生息状況調査を行っている。
調査研究課題名 及び概要	酸性雨モニタリング（陸水）調査（環境省委託事業） 環境省の委託により酸性雨の中長期的影響を把握するため、今神御池（山形県戸沢村）における水質調査及びプランクトン調査を継続的に行っている。

実施機関名	福島県環境創造センター
調査研究課題名 及び概要	<p>野生生物における放射性核種の挙動及び行動予測</p> <p>野生動物の生体内における放射性セシウムほか放射性核種の挙動、食物連鎖による野生生物間での移行等の調査を行う。また、食物連鎖に係る野生動物の食性を含む行動解析、年及び季節毎の野生生物の行動予測・筋肉中放射性核種濃度の変動に関する研究等を併せて実施する。</p> <p>[URL]<a href="https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/102757.pdf">https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/102757.pdf</a></p>
調査研究課題名 及び概要	<p>猪苗代湖の水環境に関する研究</p> <p>猪苗代湖の中性化に伴い、特有の自然浄化機能が低下し、COD 上昇など水質悪化の傾向があることから、湖水中性化メカニズムの解明及び汚濁負荷原因の解明を進めることにより水質汚濁の原因を明らかにし、水質改善に向けた効果的な方法等について研究を行う。</p> <p>分布域が拡大しているヒシを含む水生植物等の分布状況や植物及び動物プランクトンの分布や種構成の変化と湖内の水質等について調査研究を行う。</p> <p>[URL]<a href="https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/102757.pdf">https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/102757.pdf</a></p>
実施機関名	新潟市衛生環境研究所
調査研究課題名 及び概要	<p>新潟市河川における水生底生生物実態調査</p> <p>「生物等による水環境評価マニュアル」（環境省）のスコア法に基づき算出した A S P T 値について、河川の水質の重要な指標である B O D 等との関連を経年的に見るため、長期の水質状況が把握できる公共用水域の常時監視地点を考慮した地点等で調査を実施している。</p> <p>[URL] <a href="http://www.city.niigata.lg.jp/iryo/shoku/syokuei/shokueishisetsu/eisei_ken/eiken_kouhousi.html">http://www.city.niigata.lg.jp/iryo/shoku/syokuei/shokueishisetsu/eisei_ken/eiken_kouhousi.html</a></p>
実施機関名	栃木県保健環境センター
調査研究課題名 及び概要	<p>湯ノ湖沈水植物の植生調査</p> <p>奥日光水域の水環境保全対策の一環として湯ノ湖に繁茂するコカナダモの刈取りを実施するに当たり、コカナダモのほか、ヒメフラスコモなど絶滅危惧種を含む沈水植物の植生及び生育状況を調査するもの。</p> <p>[URL]<a href="http://www.thec.pref.tochigi.lg.jp/thec/result.htm">http://www.thec.pref.tochigi.lg.jp/thec/result.htm</a></p>
調査研究課題名 及び概要	<p>水生生物調査</p> <p>県内主要河川について、水生生物の生育状況を調査することにより、生物学的観点から水質を継続的に監視する。</p> <p>[URL]<a href="http://www.pref.tochigi.lg.jp/d03/eco/kankyou/hozen/jyoujikansikekka.html">http://www.pref.tochigi.lg.jp/d03/eco/kankyou/hozen/jyoujikansikekka.html</a></p>

実施機関名	群馬県衛生環境研究所
調査研究課題名 及び概要	<p>環境 DNA を利用した生物多様性に関する調査</p> <p>現在、水生生物調査の確認手段には、欠点がある。しかしながら、その欠点を補完する新たな手法として、水中に含まれる DNA から存在する生物種を特定するが提案されてきている。</p> <p>この新たな手法では、魚類の特定が可能となっており、まず、モニタリング方法としての有用性を確認する。その後、県内河川において、生息している魚類の調査を行い、その結果を河川水質データ等と併せてマッピングしていく予定である。</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>尾瀬沼水質調査およびコカナダモ生育状況観察結果</p> <p>昭和 61 年から平成 2 年にかけて実施された「尾瀬沼におけるコカナダモの試験駆除」の後、群馬県では毎年コカナダモの繁殖状況を観察している。</p> <p>当所では、年に 3 回引き上げによるコカナダモの観察を行っており、採取地点ごとのコカナダモの量や長さから繁殖状況の変動について考察する。</p>
実施機関名	埼玉県環境科学国際センター
調査研究課題名 及び概要	<p>県民参加を主体とした光化学オキシダント（オゾン）によるアサガオ被害調査</p> <p>毎年 7 月に県民参加により、埼玉県内で生じる光化学オキシダントによるアサガオ被害の状況を調べる。具体的には県民の協力により、県内約 60 地点程度でアサガオの葉に発現するオゾン被害を調査するとともに、その被害状況を地図化し、ホームページ等で公表する。</p> <p>[URL]<a href="https://www.pref.saitama.lg.jp/cess/torikumi/asagaotyousa/index.html">https://www.pref.saitama.lg.jp/cess/torikumi/asagaotyousa/index.html</a></p>
調査研究課題名 及び概要	<p>水稲の収量に対するオゾンリスク評価</p> <p>我が国の主要水稲品種（約 18 品種）の収量に対する光化学オキシダントの主成分であるオゾンの影響の評価</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>埼玉県における特定外来生物”クビアカツヤカミキリ”の生息状況調査</p> <p>埼玉県における特定外来生物”クビアカツヤカミキリ”の生息状況を、県民参加による調査で把握し、結果をホームページ等で公表する。</p> <p>[URL]<a href="https://www.pref.saitama.lg.jp/cess/center/kubiaka.html">https://www.pref.saitama.lg.jp/cess/center/kubiaka.html</a></p>
調査研究課題名 及び概要	<p>外来水生植物が水域・陸域の生物群集及び食物網に及ぼす影響の解明</p> <p>外来水生植物が繁茂することにより生じる水生動物や陸生無脊椎動物群集への影響を解明する。また、県内外の既存の分布データを活用してハビタットモデルを構築し、外来水生植物のポテンシャルマップを作成する。</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>水田地帯における水生動植物の生息状況に関する基礎的調査研究</p> <p>水田に生息する水生動植物の生息状況の調査を行う。埼玉県北部では、同一地域内でも稲の栽培品種や農法によって田植え時期に 1 ヶ月程度の差が見られることから、田植え時期と生物群集の関係について明らかにする。</p>

(続き) 埼玉県環境科学国際センター

<p>調査研究課題名 及び概要</p>	<p>共同研究Ⅱ型「生物応答を用いた各種水環境調査方法の比較検討」</p> <p>国立環境研究所及び地方環境研究所との共同研究Ⅱ型に参加し、生物試験方法(WE T手法等)に関する情報収集・検討を行う。</p> <p>本県は、生物試験に用いた河川水の重金属類の分析を担当し、他の機関で実施した生物試験等の結果解析に用いる。</p>
<p>調査研究課題名 及び概要</p>	<p>県内河川の魚類生息密度推定法への環境DNA分析の適用の検討</p> <p>環境DNA種特異的解析についての研究。特定外来種対策や希少種保全策への適用を目的とした魚類生息密度推定法への環境DNA分析の適用と実用化の検討を行う。</p>
<p>調査研究課題名 及び概要</p>	<p>DNAを利用した魚類等調査法の開発</p> <p>環境DNAメタバーコーディングについての研究。水環境の健全性評価や生活排水対策の効果検証への魚類相の適用に向けて、環境DNA分析を活用した新しい魚類調査手法を検討する。</p>
<p>実施機関名</p>	<p>公益財団法人東京都環境公社 東京都環境科学研究所</p>
<p>調査研究課題名 及び概要</p>	<p>多摩川水系におけるミズワタ珪藻の分布状況に関する調査</p> <p>近年、多摩川水系上流域の一部で水際の石上に外来付着珪藻 <i>Cymbella janischii</i> の大量増殖が確認されている。マット状に発達した <i>C. janischii</i> はミズワタのように水中を漂い、河川の川の景観を著しく損ねるばかりでなく、水生生物の生息環境に悪影響を与えている可能性が指摘されている。</p> <p>本研究は、<i>C. janischii</i> の生態系へのリスクと拡大防止策を視野に入れながら、多摩川水系における同種の分布状況の調査を行う。</p>
<p>調査研究課題名 及び概要</p>	<p>全天球画像を活用した緑地の立体構造把握に関する研究</p> <p>森林内で撮影した全天球画像を活用して森林の階層構造や植被率等の立体的な構造を把握する研究を行っている。都内の代表的な森林群落について毎木調査を行い、その結果と画像による専門家の判定の誤差を検証、活用可能性を検討すると同時に撮影方法の確立、さらには全天球画像から画像解析による自動判定も目指す。</p> <p>[URL]<a href="https://www.tokyokankyo.jp/kankyoken/wp-content/uploads/sites/3/2018/10/5-3.pdf">https://www.tokyokankyo.jp/kankyoken/wp-content/uploads/sites/3/2018/10/5-3.pdf</a>  <a href="https://www.tokyokankyo.jp/kankyoken/wp-content/uploads/sites/3/2019/10/5-2.pdf">https://www.tokyokankyo.jp/kankyoken/wp-content/uploads/sites/3/2019/10/5-2.pdf</a></p>
<p>調査研究課題名 及び概要</p>	<p>緑の多様な機能の評価システムの研究</p> <p>米国の緑機能の評価システム(i-Tree)を参照し、国内の環境に即した緑の多面的機能の定量的評価と、市民による便益評価を取り入れた東京版緑の評価システムを開発する。これにより、緑化の価値や費用対効果を明確化することで、緑化推進の政策的根拠の提供と緑化を進め易い環境創出のための市民理解の醸成を目指す。</p>

実施機関名	神奈川県環境科学センター
調査研究課題名 及び概要	<p>河川のモニタリング調査</p> <p>本県で平成 19 年度から実施している水源林の再生とダム湖の負荷軽減を目的とした水源環境保全事業(個人県民税の超過課税により実施)の実施効果を検証するため、県の主要な水がめとなっている相模川、酒匂川の各 40 地点について水質、生物(魚類、鳥類、植物、両生類、底生動物、付着藻類)、河床底質の状況をモニタリングしている。</p> <p>調査は 5 年毎に相模川は平成 20、25、30 年度、酒匂川は平成 21、26、31(予定)年度に実施している。</p> <p>[URL]<a href="http://www.pref.kanagawa.jp/docs/b4f/suigen/top.html">http://www.pref.kanagawa.jp/docs/b4f/suigen/top.html</a></p>
調査研究課題名 及び概要	<p>河川モニタリング調査の補完・代替のための環境 DNA 調査の導入検討</p> <p>5 年毎に実施している河川モニタリングの生物調査について、より省力で効率的な調査手法を開発し、従来の調査を補完・代替することを目的として、サンショウウオ類・魚類の捕獲調査・環境 DNA 調査の同時実施を実施(試行的にカワネズミについても調査実施)。</p> <p>サンショウウオ類については、水中に存在する DNA が低濃度であることからより精度を高めるため、季節と時刻による DNA 濃度の変化を把握するための調査を実施。</p>
実施機関名	山梨県衛生環境研究所
調査研究課題名 及び概要	<p>イネ科及びブタクサ花粉飛散状況等に関する研究</p> <p>これまで当所では春季スギ、ヒノキの花粉飛散状況の観測を行ってきたが、イネ科、ブタクサについても花粉飛散状況を観測し、周辺の植生や気象条件との関連性を解析する。また、有病率が高いとされる県民等への効果的な情報発信のため花粉症ポータルサイトを開設し、花粉症の発症や重症化予防を図る。</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>外来種珪藻 <i>Cymbella janischii</i> の分布実態調査</p> <p><i>Cymbella janischii</i> は近年国内でも散見される、外来種の大型珪藻である。本種は県内魚業権魚種の一つであるアユの定着に悪影響を及ぼす可能性が示唆されていることから水産技術センターの要望により、同種の県内河川での存在状況を明らかにし、健全な水産業の維持に必要な資料を提供する。</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>下水処理場流入水および放流水から検出された腸管系病原菌の解析</p> <p>前研究により、下水中の腸管系病原体の検出状況が明らかになったが、ヒト由来株との関連性や環境への排出状況は十分解明されていない。本研究では、下水処理場における流入由来株、放流水由来株とヒト由来株等の関連性の解析を行うことで腸管系病原細菌の感染流行状況へのモニタリングの有効性を検証する。</p>

実施機関名	長野県環境保全研究所
調査研究課題名 及び概要	野尻湖の水草に関する調査研究 水草の定期モニタリング地点において、水草の復元状況を把握する。確認できた水草は、繁茂密度、範囲などを定量的に評価して、野尻湖水質保全計画の基礎資料とする。
調査研究課題名 及び概要	侵略的外来生物を早期発見するためのモニタリング手法及び防除技術の開発 本研究では、(1)HP等により県内の外来生物リスト、その生態や影響・課題等を積極的に情報発信するとともに、多くの方に情報提供してもらう仕組みをつくること、(2) 定着状況、被害状況、対策の実効性等から対策方針の検討、(3) 特に問題が大きい外来生物について、その分布や被害状況等のモニタリングを継続し、新たな外来生物の侵入を監視することを目的とする。 [URL] <a href="https://www.pref.nagano.lg.jp/kanken/chosa/kenkyu/gairai/index.html">https://www.pref.nagano.lg.jp/kanken/chosa/kenkyu/gairai/index.html</a>
調査研究課題名 及び概要	高山生態系モニタリングに関する調査研究 本研究は、長野県の特徴的な自然環境である高山生態系について、中長期的（気候変動）、短期的（ニホンジカによる摂食圧の増加等）な環境変動に対する応答を把握することを目的とする。今期の研究では特に、高山植物の種多様性が全国的に高い八ヶ岳において、八ヶ岳固有の高山植物の存続の危険性がシカ摂食により高まっていることから、緊急的な課題として、それら高山植物の現状把握に注力する。研究内容としては、(1)高山帯に生息する希少動植物の現状と保護・保全に関する調査研究、(2)高山生態系サイトでのモニタリング調査（北ア爺ヶ岳・中ア駒ヶ岳・御嶽山等）、(3)山岳地の気象環境調査、(4) 山者参加型の山岳地環境情報（ライチョウ・ニホンジカ等）の収集 <a href="https://www.pref.nagano.lg.jp/kanken/chosa/kenkyu/kozan/index.html">https://www.pref.nagano.lg.jp/kanken/chosa/kenkyu/kozan/index.html</a>
調査研究課題名 及び概要	野生鳥獣の保護管理にむけた生態及び被害対策に関する調査研究 シカ、サル、クマ、イノシシ、魚食性鳥類などの野生鳥獣は、生息数や生息域が変化しており、農林水産物被害、人身への被害、生態系への影響が懸念されている。本プロジェクトは、野生鳥獣被害対策本部の被害対策支援チームの一員として対策を支援し、問題となっている野生鳥獣と持続可能な関係性を構築することを目的とする。最終目標は、長野県における野生鳥獣とヒトの暮らしと健全な生態系の両立である。 [URL] <a href="https://www.pref.nagano.lg.jp/kanken/chosa/kenkyu/yase/index.html">https://www.pref.nagano.lg.jp/kanken/chosa/kenkyu/yase/index.html</a>

(続き) 長野県環境保全研究所

<p>調査研究課題名 及び概要</p>	<p>陸水域における魚類の保全と管理に関する研究</p> <p>本研究では、千曲川中流域の生物生産を良好に維持しながら河川環境を管理することを目的として、魚類に関する調査を実施しているが、初年度調査の結果、従来湖沼に多いとされる外来魚コクチバスが千曲川中流域に予想以上に多く生息していることがわかった。コクチバスはアユやウグイ等の有用在来魚を捕食すると考えられることから、今後は、これらコクチバスの分布、摂餌・産卵等の生態特性、さらには在来種との種間関係に関する情報を収集していく。</p> <p>[URL]<a href="https://www.pref.nagano.lg.jp/kanken/chosa/kenkyu/gairai/index.html">https://www.pref.nagano.lg.jp/kanken/chosa/kenkyu/gairai/index.html</a></p>
<p>調査研究課題名 及び概要</p>	<p>長野県におけるカラマツ林の炭素収支の気候変動応答と森林管理による緩和策の評価</p> <p>全国3位の森林面積を有する長野県では人工林の半分以上をカラマツが占めており、冷涼な気候を好むカラマツは気候変動に対する脆弱性が指摘されている。そこで、本研究は長野県のカラマツ人工林を対象に、地域気候モデルによる高解像度の近未来気候予測値と陸域生態系モデルを利用して、森林生態系の炭素収支の将来予測を行い、間伐や樹種転換等の森林管理が将来の炭素収支に与える効果を評価することを目的とする。</p>
<p>調査研究課題名 及び概要</p>	<p>信州の生物多様性の保全および自然資源の価値共有手法の開発</p> <p>自然は資源と認知されることではじめて資源となる。そのためには、その認知を可能にする知識・体験のフレーム（枠組み）が必要である。山岳や高原で特徴づけられる信州の自然の特色は広く知られている。しかしその価値・希少性を地域の価値として科学的基盤（生物多様性・地形地質・気候条件等）にもとづいて社会的に広く共有し活用することは十分行われていない。そこで本研究は、これらの科学的な知見にもとづく地域の価値を統合的に示し、危機に直面する自然環境の保全対策に活かすとともに、特色ある自然資源の持続可能な活用につなげることを目的として行う。</p> <p>[URL]<a href="http://www.pref.nagano.lg.jp/kanken/chosa/kenkyu/tayose/index.html">http://www.pref.nagano.lg.jp/kanken/chosa/kenkyu/tayose/index.html</a></p>
<p>実施機関名</p>	<p>静岡県環境衛生科学研究所</p>
<p>調査研究課題名 及び概要</p>	<p>外来不快害虫ヤンバルトサカヤスデの分布・生態特性の解明</p> <p>1980年代に台湾から沖縄に侵入し、近年本州でも確認されている外来種ヤンバルトサカヤスデは、秋の繁殖期に異常発生して集団で壁によじ登ったり家屋に侵入するなどの不快性被害を引き起こし、静岡県内でも問題となっている。これまで、静岡県内における本種の生態特性や環境適応度を把握するとともに、分子生物学的手法を用いて分布拡大パターンを解明してきた。現在、県内の市町、保健所へのアンケート調査を秋の異常発生が起こる時期に実施し、分布拡大状況の把握に努めている。</p>



実施機関名	さいたま市健康科学研究センター
調査研究課題名 及び概要	<p>アズマモグラの生態に関する研究</p> <p>モグラは地下にトンネルを掘るという独特の生活様式から、田畑や堤防を損傷する害獣として認識される一方で、地中生活に適応した体のつくりや行動、雌は正常状態で卵精巣を生殖腺として持つという特異な生態をもつ。</p> <p>さいたま市内で捕獲されたアズマモグラに関して組織・形態学的、内分泌学的手法を用いて検索を行い、その繁殖生理や行動に関わる器官の構造・機能を調べる。</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>生物応答手法を用いたさいたま市内河川水水質調査</p> <p>環境省が導入を検討している、生物応答手法を用いた排水検査のうちニセネコゼミジンコを用いた排水試験法の検査を行えるようにする。</p> <p>また、その手法を用いてさいたま市内の河川水の水質調査を行う。</p>
実施機関名	横浜市環境科学研究所
調査研究課題名 及び概要	<p>水域生物多様性に関する調査業務（河川域）委託</p> <p>横浜市内水域生物の生息状況を把握し、生物指標による水質評価を行うことを目的として、2年おきに河川域調査と海域調査を実施している。令和1年度は夏季に魚類、底生動物、付着藻類、水草の調査を行い、平成30年度冬季の調査と併せて第15回目の河川域調査結果として取りまとめる。</p> <p>[URL] <a href="http://www.city.yokohama.lg.jp/kankyo/mamoru/kenkyu/data/forest/kasen.html">http://www.city.yokohama.lg.jp/kankyo/mamoru/kenkyu/data/forest/kasen.html</a></p>
調査研究課題名 及び概要	<p>横浜市内の池における魚類、甲殻類（十脚目）相調査</p> <p>横浜市内の池において魚類、甲殻類（十脚目）相調査を実施し、現在の生物生息状況を把握するとともに、過去に実施した調査結果との比較を行う。令和1年度は7地点で調査を実施した。</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>陸域生物多様性に関する調査業務委託</p> <p>横浜市内陸域生物の生息状況を把握し、環境変化や地域特性による生物相の違いについて基礎資料を得ることを目的として、4年間で12地点を一巡できるよう調査している。令和元年度は舞岡公園、瀬谷貉窪公園、天王森泉公園において、植物、哺乳類、鳥類、両生・爬虫類、昆虫類の調査を行う。</p> <p>[URL] <a href="https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/kankyohozen/kansoku/science/naiyou/tayosei/forest.html">https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/kankyohozen/kansoku/science/naiyou/tayosei/forest.html</a></p>
調査研究課題名 及び概要	<p>市民協働調査 こども「いきいき」生き物調査</p> <p>市民に地域の自然や生き物への関心を高めてもらうとともに、生物多様性保全に資する基礎データを取得することを目的として、平成25年度より横浜市全域で小学生による生き物調査を実施している。令和元年度は市立小学校全342校に調査票を配布し、ツバメの巣、リス、カブトムシなど9種類の生き物を過去1年間に学区内で見つけたかについて回答してもらい、調査結果としてまとめた。</p> <p>[URL] <a href="https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/kankyohozen/kansoku/science/naiyou/tayosei/ikiiki.html">https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/kankyohozen/kansoku/science/naiyou/tayosei/ikiiki.html</a></p>

(続き) 横浜市環境科学研究所

調査研究課題名 及び概要	市内河川におけるアユの遡上および分布 アユは通し回遊魚であり、横浜市内河川のアユ集団の分布を調査することで、海から川までの流域を含めた河川環境の把握に繋がるものと考えられる。 この調査は横浜市内の河川6水系33地点において、3～11月に月2回の目視踏査により実施した。
調査研究課題名 及び概要	山下公園前海域における生物相モニタリング調査 横浜市の山下公園前海域に設置されている「つき磯」等について水質、底質、生物相等調査を行い、過去の結果も踏まえて生物相の現状を評価する。令和元年度は夏季に調査を実施した。 [URL] <a href="https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/kankyohozen/kansoku/science/naiyou/umi/umidukuri.html">https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/kankyohozen/kansoku/science/naiyou/umi/umidukuri.html</a>
実施機関名	川崎市環境総合研究所
調査研究課題名 及び概要	河川等の水質及び水生生物の生息・生育状況モニタリング調査 川崎市水環境保全計画に基づき、市内河川、海域、親水施設等の水質や水生生物の生息状況を継続的に調査している。 [URL] <a href="http://www.city.kawasaki.jp/kurashi/category/29-3-8-17-0-0-0-0-0-0.html">http://www.city.kawasaki.jp/kurashi/category/29-3-8-17-0-0-0-0-0-0.html</a>
調査研究課題名 及び概要	水環境における生物多様性に関する調査研究 市内に生息する生物の種類を、顕微鏡観察およびDNA配列の解析により調査し、市内調査地点における生物多様性の状況を把握している。 [URL] <a href="http://www.city.kawasaki.jp/kurashi/category/29-3-8-17-0-0-0-0-0-0.html">http://www.city.kawasaki.jp/kurashi/category/29-3-8-17-0-0-0-0-0-0.html</a>

実施機関名	愛知県環境調査センター
調査研究課題名 及び概要	海上の森自然環境保全地域における希少種の保全についての研究 海上の森自然環境保全地域では、シデコブシ等の希少種が植生の遷移により、ほかの樹木等に被陰されて生育状況が悪化している。そこで、本県とともに多様な主体の協力により、間伐など希少種の保全活動が行われている。この保全活動による動植物の状況を調査、解析をするとともに、水質等に関する調査も総合的にを行い、希少種の保全に役立てる。
調査研究課題名 及び概要	絶滅危惧種フォローアップ調査 レッドリストあいち2015に掲載されている絶滅危惧種及び今後絶滅危惧種となるおそれのある種について、最新の生息生育情報を収集・解析する。
調査研究課題名 及び概要	外来種調査 県内に生息する外来種について、最新の生息生育状況の収集・解析を行う。
実施機関名	滋賀県琵琶湖環境科学研究センター
調査研究課題名 及び概要	琵琶湖・瀬田川プランクトン等のモニタリングと遷移の評価 沿岸域における生態系改善対策の一つとして、浅い砂地の修復・再生に向けて、事業の設計に必要な知見を得るため、二枚貝等を評価指標とした生息・餌環境を形成する要因を評価するとともに、養浜等の事業における底質や生物への影響を評価することにより、場の特性に合わせた、二枚貝等がにぎわう沿岸環境を修復・保全する設計手法を提示する。 [URL] <a href="https://www.lberi.jp/learn/research_list#!#plan5th">https://www.lberi.jp/learn/research_list#!#plan5th</a> 瀬田川プランクトン調査結果 <a href="https://www.lberi.jp/setagawa_plankton">https://www.lberi.jp/setagawa_plankton</a>
調査研究課題名 及び概要	化学物質の影響把握と総量リスク評価手法の検討 サブテーマ2：総量リスク評価のための生態影響試験等の手法確立 沿岸域における生態系改善対策の一つとして、浅い砂地の修復・再生に向けて、事業の設計に必要な知見を得るため、二枚貝等を評価指標とした生息・餌環境を形成する要因を評価するとともに、養浜等の事業における底質や生物への影響を評価することにより、場の特性に合わせた、二枚貝等がにぎわう沿岸環境を修復・保全する設計手法を提示する。 [URL] <a href="https://www.lberi.jp/learn/research_list#!#plan5th">https://www.lberi.jp/learn/research_list#!#plan5th</a>
調査研究課題名 及び概要	琵琶湖沿岸域における湖底環境・生物再生に向けた研究（政策課題研究1） 沿岸域における生態系改善対策の一つとして、浅い砂地の修復・再生に向けて、事業の設計に必要な知見を得るため、二枚貝等を評価指標とした生息・餌環境を形成する要因を評価するとともに、養浜等の事業における底質や生物への影響を評価することにより、場の特性に合わせた、二枚貝等がにぎわう沿岸環境を修復・保全する設計手法を提示する。 [URL] <a href="https://www.lberi.jp/learn/research_list#!#plan5th">https://www.lberi.jp/learn/research_list#!#plan5th</a>

実施機関名	京都府保健環境研究所
調査研究課題名 及び概要	<p>ネオニコチノイド系農薬の脊椎動物に対する安全性についてー水田生態系の保全を目指してー</p> <p>ネオニコチノイド系農薬のうちイミダクロプリド、アセタミプリド、クロチアニジン、ジノテフランの4種とフェニルピラゾール系のフィプロニルを対象とする。OECDのテストガイドライン（カエル変態試験）に準じた方法により、ネットアイツメガエルの幼生を用いた短期暴露と長期暴露による影響を、個体レベルで観察する。</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>地域の生物相調査から行う環境影響評価研究</p> <p>気象状況や人為的影響を考慮しながら、地域の環境との関連を調査し、環境評価を試みる。下記の実施期間においては対象生物として蚊を選定する。デング熱等発生時における蚊類調査は8分間人囀法が基本となるが、感染リスクを低下させるため昨年同等の捕獲特性を確認したBG-センチネルTM2トラップの利用について検討する。また、本法により捕獲された蚊の季節消長の把握を試みる。</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>京都府の淡水ガメ生息実態調査</p> <p>環境省、農水省により「緊急対策外来種」に指定されたミシシippアカミミガメについて、①京都府内における分布状況を把握する、②生態学的に重要な水域における生息状況と在来種や生態系への影響を明らかにする、③防除後安楽死させた死骸の有効活用方法（堆肥化とアカミミガメ堆肥の成分分析による有用性）を確立するなど、本府と環境省のミシシippアカミミガメ対策に有用な情報を提供するため、野外調査及び室内実験を実施する。</p> <p>[URL] <a href="http://www.pref.kyoto.jp/hokanken/documents/tayori111.pdf">http://www.pref.kyoto.jp/hokanken/documents/tayori111.pdf</a></p>
実施機関名	地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所
調査研究課題名 及び概要	<p>シカ・イノシシのモニタリング調査</p> <p>農林業被害の軽減・人と野生鳥獣の共存を図るため、大阪府では鳥獣保護管理法に基づくシカ・イノシシの第二種鳥獣管理計画を策定している。この管理計画の策定や進捗状況の点検のためには、地域におけるシカ・イノシシの生息状況や被害状況などの定期的なモニタリングが必須である。そこで、大阪府シカ・イノシシ第二種鳥獣管理計画の進捗状況を点検見直しするための基礎資料を提供する。</p> <p>[URL]<a href="http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/_files/00057622/h26_09seisoku.pdf">http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/_files/00057622/h26_09seisoku.pdf</a></p>
調査研究課題名 及び概要	<p>外来生物対策調査業務</p> <p>本来日本には生息しない外来種であるアライグマは、近年生息域を広げて農業被害が拡大しており、大阪府では外来生物法に基づく防除実施計画を策定して対策を実施している。計画の策定や進捗状況の点検のためには、アライグマの生息状況や被害状況など定期的なモニタリングが必須である。そこで、大阪府アライグマ防除実施計画の進捗状況を点検見直しするための基礎資料を提供する。</p> <p>[URL]<a href="http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/_files/00057622/h26_09seisoku.pdf">http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/_files/00057622/h26_09seisoku.pdf</a></p>

(続き) 地方独立行政法人大阪府立環境農林水産総合研究所

<p>調査研究課題名 及び概要</p>	<p>日本のシカ-植生モニタリング調査 (2009, 2018) からみた地域の生物多様性保全研究</p> <p>植生学会が2009-2010年に全国の植生を対象に実施したシカの影響調査と同様の規模で2017-2018年に全国調査を実施することで、シカによる植生および地域生態系への影響の推移を全国規模で把握し、その経年変化を比較検討する。同時に、大阪で生物多様性ホットスポットなど貴重な自然の保全活動を行ってきた市民・環境保全グループを対象にシカ対策の成果や課題を集約・解析する。以上により、市民・保全団体が活用できるシカ問題解決のための統合的管理を提案する。</p> <p>[URL]<a href="http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/_files/00056403/H25-nihonjika.pdf">http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/_files/00056403/H25-nihonjika.pdf</a></p>
<p>調査研究課題名 及び概要</p>	<p>イタセンパラ保護定着調査</p> <p>国の天然記念物の淡水魚イタセンパラは、河川改修によるワンドの消失、河川の攪乱の減少、外来魚の増加などにより個体数が著しく減少し、平成17年を最後に生息確認が途絶えた。そこで、当研究所では、国土交通省 近畿地方整備局 淀川河川事務所とともに、本種を当所の保存池で飼育継代するとともに、淀川ワンド群の生物多様性復元の一助とするため、イタセンパラ放流ワンドでの本種を含めた在来魚の生息・繁殖状況を明らかにする。また、外来水生生物の実態を把握し、駆除技術を開発するとともに、本種を含めた在来魚種に感染する恐れのある魚病検査を実施する。</p> <p>[URL] <a href="http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/kankyo/gijutsu/seika/hogo/itasen/saidounyu.html">http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/kankyo/gijutsu/seika/hogo/itasen/saidounyu.html</a> <a href="http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/_files/00057783/h26_07itasenpara.pdf">http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/_files/00057783/h26_07itasenpara.pdf</a></p>
<p>調査研究課題名 及び概要</p>	<p>希少魚の保護増殖試験</p> <p>都市化に伴う生息環境の悪化等により、府内では魚など多くの水生生物に生息数の著しい減少がみられるようになった。そこで、大阪府における保護上重要な野生生物 (レッドデータブック) で絶滅危惧種に指定され、現在絶滅が危惧されているイタセンパラやニッポンバラタナゴなどについて、種の系統保存を図るとともに、その生息状況を把握する。</p> <p>[URL] <a href="http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/kankyo/gijutsu/seika/hogo/index.html">http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/kankyo/gijutsu/seika/hogo/index.html</a></p>
<p>調査研究課題名 及び概要</p>	<p>淡水生物増殖試験</p> <p>大阪府における保護上重要な野生生物 (レッドデータブック) に記載されている希少水生生物を保護するための調査試験を行う。平成15年度から平成26年度にかけては水生植物ミズアオイ、平成27年度からは淡水二枚貝のイシガイ類の保全に係る研究に取り組んでいる。</p> <p>[URL]<a href="http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/kankyo/gijutsu/seika/mizukusa.html">http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/kankyo/gijutsu/seika/mizukusa.html</a></p>

(続き) 地方独立行政法人大阪府立環境農林水産総合研究所

調査研究課題名 及び概要	安威川ダム魚類捕捉調査業務 平成32年の竣工に向けてダム建設工事が進んでいる安威川において、アジメドジョウをはじめとした魚類、水生動物、付着藻類、植生を調査し、ダム建設を進める上で保全すべき環境要素や留意点を明らかにする。 [URL] <a href="http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/kankyo/gijutsu/seika/ai.html">http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/kankyo/gijutsu/seika/ai.html</a>
調査研究課題名 及び概要	漁業権河川調査 大阪府内8河川に設定されている漁業権免許の更新時には、漁業法第11条に基づいた漁業計画の策定が必要となる。漁業計画策定に際しては、漁場の有効性等を検討する必要があることから、河川漁業権漁場の総合的な実態調査を実施する。調査地点の無機的環境、付着藻類、底生動物、魚類の調査を実施する。
調査研究課題名 及び概要	生物応答を利用した排水管理手法 生物応答を利用した排水管理手法であるWETについて、その方法や国内外の実施状況をまとめ、有効性と導入に向けた問題点を抽出する。
実施機関名	公益財団法人ひょうご環境創造協会兵庫県環境研究センター
調査研究課題名 及び概要	沿岸域の物質貯蔵機能評価、生物生息環境の変動に対する応答の解明 富栄養化した閉鎖性海域である大阪湾奥の尼崎港人工干潟において、生物種および量の変動、栄養塩の循環、炭素貯留に関する調査研究
実施機関名	奈良県景観・環境総合センター
調査研究課題名 及び概要	生物応答を用いた各種水環境調査方法の比較検討（Ⅱ型共同研究への参加） ・Ⅱ型共同研究に参加し、地環研が採水したサンプル（河川水）を用いて生物影響試験を行い、結果の共有及び試験精度の向上を図る。 また、研究の過程で得られた知見・技術などを共有することで、試験法の改善案などを検討していく。 ・WET手法（ミジンコ繁殖試験法）により、県内河川及び県内事業所排水を用いて生物影響試験を行い、ニセネコゼミジンコへの影響を評価する。
実施機関名	和歌山県環境衛生研究センター
調査研究課題名 及び概要	底生動物相を用いた河川環境の変遷調査 県内の3河川について、底生動物相を調査し、水質評価を行うと伴に、20年前に実施した第1次調査との比較により、底生動物相及び河川水質の変遷や長期的影響を調査する。 また、得られた情報は環境学習にも活用する。

実施機関名	名古屋市環境科学調査センター
調査研究課題名 及び概要	<p>内部生産抑制を目的とした市内ため池における植物プランクトンの研究</p> <p>本研究では、ため池における内部生産（植物プランクトンの増殖による汚濁）に着目し、市内ため池の現状を把握した上で、内部生産を抑制し水質改善へつなげるための手法について検討する。</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>市内希少種の保全とこれに関わる外来種の影響についての研究</p> <p>名古屋市内に生息する希少種を適切に保全するための基礎的情報として、希少種の生息に必要な環境条件に関する情報及び外来種による影響について実態を調査する。</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>生物応答を用いた排水（環境水）試験方法</p> <p>この試験法は、環境中に排出される事業所排水を、魚類・甲殻類・藻類の3種の水生生物を用いて試験を行い、排水が水生生物に影響を及ぼさないかを評価する試験である。従来の排水規制を補完する役割として注目されており、当センターにおいて、3種の生物の飼育試験を行っている。</p>
実施機関名	大阪市立環境科学研究センター
調査研究課題名 及び概要	<p>公立小学校における生物多様性の評価とその普及に関する調査研究</p> <p>大阪市内の公立小学校において、児童とともに校内に生息する動植物を探索し、生物群集の季節変化を追跡することにより、生物多様性に関する理解を深める機会を与える。得られたデータに基づき、各生物種の分布の地域特性や周辺環境との関連性について、地理情報システム（GIS）を用いて解析を行なう。</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>北港処分地における衛生動物のモニタリング調査</p> <p>大阪市北港処分地南地区において、ネズミ類、ハエ類、ユスリカ類の生息密度をモニタリングし、その防除方法を提案している。</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>都市域に生息するトノサマガエルの集団維持機構の解明</p> <p>大阪府内に生息する準絶滅危惧種トノサマガエルがどのような機構により集団を維持しているのかを明らかにするために、大阪市を中心とする都市域及びその周辺において、トノサマガエルの生息状況を調査し、遺伝学的解析により各集団間の遺伝的交流の状況を把握する。</p>

実施機関名	鳥取県衛生環境研究所
調査研究課題名 及び概要	<p>水環境における生物多様性の保全と再生に関する研究</p> <p>県レッドデータブックにリストアップされている水生動植物のうち、人との関わりの中かで絶滅の危機に晒されているものや地域に固有の水生植物を対象とし、これらの系統保持・再生技術を確立させ、生息地における保全方法を検討する。</p> <p>また、調査研究等で得られた知見等を基に、地域住民等へ情報提供を行い、将来的には地域住民等が主体となった保全活動を目指すことを目標にサポートを行う。[URL] <a href="https://www.pref.tottori.lg.jp/144171.htm">https://www.pref.tottori.lg.jp/144171.htm</a></p>
実施機関名	島根県保健環境科学研究所
調査研究課題名 及び概要	<p>アオコ発生・継続に関与する環境因子の解明に関する調査</p> <p>アオコの発生から発生後まで、宍道湖沿岸部を含めた化学的な水質検査を行うとともに、植物プランクトンの優占種や出現種の変化について調査する。</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>宍道湖に発生する植物プランクトンの脂肪酸組成に関する基礎的研究</p> <p>ヤマトシジミは植物プランクトンを捕食するが、この植物プランクトンの脂肪酸についても多くの研究が行われており、珪藻、藍藻では含まれる脂肪酸の組成が大きく異なることが知られている。宍道湖にはさまざまな植物プランクトンが発生することから、本研究では多くの種類の植物プランクトン（藍藻類、珪藻類、緑藻類、渦鞭毛藻類）について脂肪酸測定を行い、ヤマトシジミに好適な餌の検討を行う。</p>
実施機関名	岡山県環境保健センター
調査研究課題名 及び概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児島湖のユスリカ幼虫調査</li> <li>・ 水生植物の分布状況調査</li> </ul> <p>児島湖の周辺地域では、ユスリカの大量発生が問題となっている。特に、平成18年以降は大量に発生したユスリカが外壁・洗濯物、商店の商品等に付着し、不快害虫として問題となったことから、対策として集落地区に近い場所に誘蛾灯が設置された。また、近年苦情等被害は減少してきているが、住宅地に近接する湖南部はユスリカ幼虫個体数が多く確認されていることから、年4回、湖南部を含む湖内3地点で継続調査を行い、対策検討の一助としている。</p> <p>また水生植物の分布状況調査では、本年度は主に児島湖内の沿岸部を船舶で航行し目視等で水生植物の繁茂状況の概況を調査した結果、夏期に湖南部でヒシ群落、児島湖流域下水道放流口付近でセキショウモ群落が確認された。今後は調査頻度・地点・方法等を検討していく予定である。</p> <p>[URL]（環境保健センター年報）</p> <p><a href="http://www.pref.okayama.jp/uploaded/life/466230_3271403_misc.pdf">http://www.pref.okayama.jp/uploaded/life/466230_3271403_misc.pdf</a></p> <p><a href="http://www.pref.okayama.jp/uploaded/life/462947_3229105_misc.pdf">http://www.pref.okayama.jp/uploaded/life/462947_3229105_misc.pdf</a></p>



実施機関名	山口県環境保健センター
調査研究課題名 及び概要	共同研究Ⅱ型「里海里湖流域圏が形成する生物生息環境と生態系サービスに関する検討」  国立環境研究所及び地方環境研究所との共同研究Ⅱ型に参加し、里海里湖流域圏が形成する生物生息環境と生態系サービスに関する情報収集・検討を行う。 本県は、榎野川河口干潟（南潟）において、鉄筋網被覆法等を用いアサリ資源の回復に関する課題解消や手法の改良を行う。
調査研究課題名 及び概要	被覆網によるアサリ再生活動の効果的な手法の検討  榎野川河口干潟における被覆網によるアサリの再生活動について、より良い生育環境の創出や作業負担の減少などに資するため、網への藻の付着が、アサリの生育に与える影響について検討する。
実施機関名	香川県環境保健研究センター
調査研究課題名 及び概要	ニッポンバラタナゴ <i>Rhodeus ocellatus kurumeus</i> の遺伝子解析 ーニッポンバラタナゴ香川個体の遺伝子モニタリングー  ニッポンバラタナゴはコイ科タナゴ亜科に属する日本固有の小型淡水魚で、環境省のレッドデータブックにおいても絶滅危惧IA類(CR)に指定されている。香川県の東讃地域はニッポンバラタナゴの貴重な生息地である。 ニッポンバラタナゴの保護には、交雑の恐れのあるタイリクバラタナゴとの正確な判別が不可欠であるが、両亜種は形態に差異が少なく、外見では判別が困難である。そのため、ミトコンドリアDNAのPCR-RFLP分析による遺伝子モニタリングを行っている。  [URL] <a href="http://www.pref.kagawa.lg.jp/content/etc/subsite/e_center/syoho/sydwvp181029160152.shtml">http://www.pref.kagawa.lg.jp/content/etc/subsite/e_center/syoho/sydwvp181029160152.shtml</a>

実施機関名	愛媛県立衛生環境研究所 生物多様性センター
調査研究課題名 及び概要	特定希少野生動植物保護管理調査  愛媛県の特定希少野生動植物に指定された絶滅危惧種について、その種ごとに保護管理事業計画を策定するため、対象種の生息状況の把握や増殖技術等について調査研究を実施している。  平成24～26年度 対象種：ナゴヤダルマガエル 平成26～28年度 対象種：コガタノゲンゴロウ 平成29～30年度 対象種：トキワバイカツツジ 平成30～ 対象種：ミズスギナ  [URL] <a href="https://www.pref.ehime.jp/h25115/biodiversity/">https://www.pref.ehime.jp/h25115/biodiversity/</a>
調査研究課題名 及び概要	外来生物の生息実態及び防除実証に関する調査研究  県内で生息が確認されているアライグマやセアカゴケグモをはじめ、定着が懸念されているヒアリ・アカカミアリ等の特定外来生物について、県民への注意喚起や防除対策の普及啓発を推進するため、生息状況のモニタリングや生態系への

	<p>影響を調査している。</p> <p>また、県内で繁殖の恐れがあり問題となっている外来生物（カミツキガメ、アカミミガメ）について、モデル地区を設定して、効果的な防除や絶滅に向けて、捕獲・実証試験を実施している。</p>
調査研究課題名	絶滅危惧種オオキトンボの発生活長調査
及び概要	<p>オオキトンボは、環境省レッドリストでは絶滅危惧ⅠB類に指定されているが、愛媛県では絶滅危惧Ⅱ類となっており、比較的安定して生息が確認されている。しかし、ため池の改修や水管理の変化に伴い生息地は減少の傾向にあり、種の保全のためには基礎的生態や減少要因の解明が必要と考えられる。</p> <p>そこで、オオキトンボの羽化が確認されているため池において、成虫の発生活長とため池の管理方法等を調べ、その関係を明らかにする。</p>
調査研究課題名	有機栽培圃場の生物多様性調査
及び概要	<p>有機農業の生産拡大を図るため、有機水稻二毛作体系を中心に、土壌環境調査及び生産現場における生物多様性の地域性や動態について調査している。</p>

実施機関名	高知県衛生環境研究所
調査研究課題名 及び概要	<p>四万十川における清流基準調査</p> <p>平成13年に制定された「高知県四万十川の保全及び流域の振興に関する基本条例」（略称：四万十川条例）にて定められた清流基準に基づいて調査を行っている。この清流基準調査は環境基本法に定められた環境基準に加えて、人間が感じる水質の状態の微妙な変化を表すために新たに清流度、水生生物及び窒素・りん項目を設定したものである。</p> <p>[URL] 高知県環境共生課のホームページ <a href="http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/030701/2017100600014.html">http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/030701/2017100600014.html</a> 高知県衛生環境研究所のホームページ（所報） <a href="https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/syohou-link.html">https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/syohou-link.html</a> （環境研究センター 平成26年度（第31号）調査研究5、平成24年度（第29号）調査研究4 等）</p>
実施機関名	福岡県保健環境研究所
調査研究課題名 及び概要	<p>福岡県保健環境研究所研究課題「侵略的外来種の防除手法に関する研究」</p> <p>「福岡県侵略的外来種リスト」に掲載された侵略的外来種のうち、防除手法が開発されている種は少なく、防除対策の推進上の大きな課題になっている。そこで、侵略的外来種のうち、防除手法が開発されていない種を対象に、県内で特徴的な種や広範に分布する種を選定し、外来種対策に資する効果的な防除手法を確立する。</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>福岡県保健環境研究所研究課題「県民参加型の生物多様性調査マニュアルの開発」</p> <p>生物多様性指標を活用するためには、非専門家であっても生物種の同定を正確に行い、指標を適切に使用することがきわめて重要である。そこで、本研究では、指標の活用を推進し、生物多様性保全に資するために、種同定のための適切な県民参加型マニュアルを開発する。</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>共同研究Ⅱ型「植物の環境ストレス影響評価とモニタリングに関する研究」</p> <p>生物多様性指標を活用するためには、非専門家であっても生物種の同定を正確に行い、指標を適切に使用することがきわめて重要である。そこで、本研究では、指標の活用を推進し、生物多様性保全に資するために、種同定のための適切な県民参加型マニュアルを開発する。</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>福岡県保健環境研究所研究課題「英彦山における森林生態系回復手法に関する研究」</p> <p>森林生態系の衰退が生じている英彦山において効率的に植生を回復させる手法を開発するために、実生の発芽を促す土壌かき起こしと、稚樹の生存・成長を阻害する下草の刈り払い操作を行い、その効果を検証する。また、ブナ苗の植栽や種子の撒き出し等の追加試験を行い、その有効性を評価する。</p>

(続き) 福岡県保健環境研究所

<p>調査研究課題名 及び概要</p>	<p>共同研究Ⅱ型「森林生態系における生物・環境モニタリング手法の活用」 日本各地におけるブナ林など、衰退が懸念される森林生態系の評価と保全対策に資するための生物・環境モニタリング手法を検証・確率させて、標準調査マニュアルを作成整備する。また、これらを活用して、全国の自治体での観測調査ネットワークの展開を推進する。</p>
<p>調査研究課題名 及び概要</p>	<p>共同研究Ⅱ型「生物応答を用いた各種水環境調査方法の比較検討」 国立環境研究所及び地方環境研究所との共同研究Ⅱ型に参加し、生物試験方法(WET手法等)に関する情報収集・検討を行う。本県は生物応答試験(藻類)により水質評価を実施する。</p>
<p>調査研究課題名 及び概要</p>	<p>福岡県保健環境研究所研究課題「全排水毒性(WET)における生物応答試験の簡易化に関する研究」 WETで用いられる生物応答試験のうち藻類生長阻害試験(淡水・海水)の簡易化法を検討し、従来法と試験精度の比較を行う。研究内容は培養方法や測定機器の検討を中心に行う。</p>
<p>調査研究課題名 及び概要</p>	<p>福岡県保健環境研究所研究課題「水環境における魚類調査への環境DNA技術の適用に関する研究」 水環境における環境DNA技術を用いた魚類調査と採捕による調査の結果を比較し、魚類調査への環境DNA技術の適用の可能性を探る。また、試料採取やデータ解析等の環境DNA調査における課題の解決に向けた調査及び試験を行う。</p>
<p>実施機関名</p>	<p>長崎県環境保健研究センター</p>
<p>調査研究課題名 及び概要</p>	<p>諫早湾干拓調整池及び周辺流入河川における淡水二枚貝類の生息場拡大手法の開発に関する研究 ・ヨシ進出工内において2通りの波浪軽減策を用いてイケチョウガイの飼育を行い、最も効果が得られた軽減策を調整池での飼育試験に採用し、効果検証する。 ・周辺の用水路においてマシジミが定着する手法を検討し、二枚貝生息場造成に繋げる。 [URL]<a href="http://www.pref.nagasaki.jp/shared/uploads/2018/01/1516775432.pdf">http://www.pref.nagasaki.jp/shared/uploads/2018/01/1516775432.pdf</a></p>
<p>調査研究課題名 及び概要</p>	<p>ツシマヤマネコ保護増殖事業(環境省委託事業)にかかる糞等のDNA分析 ツシマヤマネコ保護増殖事業の一環として、生息状況モニタリング(痕跡調査)、大規模調査(第5次調査、2018~2019年度)において採取された糞サンプル等について、DNA分析により種判別、性判別及び個体識別を行う。</p>

実施機関名	熊本県保健環境科学研究所
調査研究課題名 及び概要	<p>熊本県内河川における水生生物相の変遷</p> <p>平成2年度より県内環境基準点等35地点において水生生物の採取を継続している。水生生物は25種の指標生物（水生生物）に分類し、その個体数を記録するとともに5段階の生物評価を行っている。</p> <p>これまでの約30年間に得られたデータについて各調査データ間の群集類似度（Horn Index）を算出し、散布図を作成した。</p>
実施機関名	宮崎県衛生環境研究所
調査研究課題名 及び概要	<p>県内河川の底生動物による水質特性についての研究</p> <p>県内河川について、底生動物を用いた生物学的調査と理化学的水質調査を行い、河川ごとの水質を総合的に評価する。調査河川は過去に調査を実施した河川とし、過去の調査結果と比較することで、水質の変動も把握する。得られた知見や情報は、本課及び保健所等関係機関に提供し、各地域で行う環境学習に活用していくことを目的とする。</p>

実施機関名	福岡市保健環境研究所
調査研究課題名 及び概要	<p>博多湾の干潟・浅海域における市民共働の生態系機能の保全・創造に関する調査研究</p> <p>博多湾の良好な環境の保全に重要な役割を果たしている干潟・浅海域を対象に生物の生息状況や水底質状況等の生態系に関する調査や市民共働による環境活動手法の事例の蓄積を行う。具体的には、海とのふれあいの場として身近にある人工海浜においてNP0等と行政が共働して生態系に関する調査を行い、その調査結果をもとに市民参加によるアマモの植付や魚礁の設置等の生きものの生息場を作る取り組みを企画・実施し、それらの効果の検証や調査手法の検討等を行っている。</p> <p>[URL]<a href="https://www.jigyohama.com/">https://www.jigyohama.com/</a></p>
調査研究課題名 及び概要	<p>福岡市内河川の底生動物を用いた環境評価</p> <p>福岡市内河川の水環境について、水質検査だけでは把握できない環境影響や長期的影響を把握することを目的として、河川底生動物を指標とした環境評価を5河川（多々良川、那珂川、御笠川、樋井川、室見川）で順に実施している。令和元年度は那珂川の淡水域について底生動物の調査を実施し、ASPT値、水生生物による水質判定を用いて環境評価を行った。</p> <p>[URL]（福岡市保健環境研究所報） <a href="http://www.city.fukuoka.lg.jp/kankyo/hokanken/kenkyu/shoholist.html">http://www.city.fukuoka.lg.jp/kankyo/hokanken/kenkyu/shoholist.html</a></p>